

# 小学校社会科教育における授業研究

—小学校第2学年「海ではたらく人」の授業—(2)

金子 邦 秀

- |                   |   |                                     |
|-------------------|---|-------------------------------------|
| I 研究目的            | } | (日本社会科教育研究会編<br>『社会科教育論叢』第XXVII集所収) |
| II 内容構成           |   |                                     |
| III 学習指導案         |   |                                     |
| IV 学習資料           |   |                                     |
| V 実験授業の概要         | } | (本誌)                                |
| VI 授業記録とその検討      |   |                                     |
| VII 子どもたちの認識とその変容 |   |                                     |
| VIII 研究の成果と課題     |   |                                     |

## V 実験授業の概要

本研究は、本論文の理論編ともいうべき、「小学校社会教育における授業研究——小学校第2学年『海ではたらく人』の授業——(1)」を基礎にして行われた実際の授業について、授業記録などをもとに分析し、検討を加えていくことを目的としている。

分析の対象とする授業は、1979年9月に、2つの小学校において実施された、合計10時間の授業である。その日時、授業者は以下の通りである<sup>1)</sup>。

注(1) 住吉小学校小玉哲教諭、神戸大学西谷稔助教授には、授業実施に対して、全面的に協力をいただいた。佐和山小学校平田明子教諭には、授業計画や資料作成そして授業実施に対して多大の時間さいて協力をいただいた。また、秋田大学中村哲講師、茨城大学片上宗二助教授の両氏からは、授業計画の立案の途上、貴重な助言をいただいた。これらの方々の協力に対して謝意を表わしたい。

実施校名 日時	神戸大学教育学部附属 住吉小学校 2年ろ組			彦根市立佐和山小学校 2年は組		
	日(曜日)	校時	授業者名	日(曜日)	校時	授業者名
導入	7(金)	4	小玉 哲	11(火)	3	平田 明子
展開1	10(月)	3	小玉 哲	12(水)	3	金子 邦秀
展開2	13(木)	5	小玉 哲	14(金)	1	金子 邦秀
展開3	14(金)	5	小玉 哲	14(金)	2	金子 邦秀
終結	20(木)	3	小玉 哲	18(火)	3	平田 明子

## VI 授業記録とその検討

### 1. 導入の授業

この授業は、子どもたちに、漁業を象徴した2つの資料「つりの漁」と「網の漁」を与え、この単元全体で子どもたちに身につけさせたい見方・考え方を仮説としてもたせることをねらいとしている。

住吉小の場合、それらは教師の発問 T<sub>1</sub>、T<sub>15</sub>、T<sub>22</sub>、T<sub>25</sub>、T<sub>34</sub>、T<sub>39</sub> として示されている。(授業記録参照) 教師は、それぞれの発問に対して、たとえば、T<sub>25</sub> であれば、P<sub>39</sub>～P<sub>51</sub> にあらわされているように、資料の絵の様に1人でできる説と1人ではできない説とを、また、この授業の最終的なねらいに迫る T<sub>38</sub> でも、P<sub>57</sub>～T<sub>46</sub> において、お金もうけのために魚をとっている説とそうではないとする説とを、それぞれひき出して、後の授業で検証する仮説として明示させている。子どもたちは自由に発言しているが、その発言は十分に教師によって整理されている。

佐和山小でも、ほぼ同じような過程をたどって導入が行われた。ここでも、生徒たちは、各発問に対して応答することにより、仮説を形成した。そして、住吉小とは異なり、最後の発問に対して、子どもたちの予想を資料の空欄に各自に書き込ませた。

〔住吉小「導入」の授業記録〕

T<sub>1</sub> 今日は、ここに何かの絵が書いてあります。それをよく見て考える勉強をします。それをよく見て考える勉強をします。何が書いてあるか、よく見て下さい。(資料配布)この絵の人は何をしていますか？

P<sub>1</sub> 網で魚をとっている。

P<sub>2</sub> 網で魚をとっているのもあるけどね、これは網でとってないでしょう。こちらは網でとっているけれど、こちらはつりしている。

P<sub>3</sub> さおでつっている。

P<sub>4</sub> この網はそうじゃないけれどね、魚とり用の網をしかけといてね、それをあげたら一発で…

P<sub>5</sub> こっちの絵のことだけどね、一本づりをしている。

P<sub>6</sub> あのね、こっち側だけどね、1人だけど漁業をしている。

T<sub>2</sub> ほう、漁業をしている。こっちが漁業をしている。こっちは違うの。

P<sub>7</sub> 漁業っていうのはね、この人は1人だけどね、なんか夕方頃網をしかけといてね…

T<sub>3</sub> P<sub>8</sub> さん、説明して、今のところ。

P<sub>8</sub> あのね、普通の人だね、こう入れてね、しばらくして昼入れてね、それでその場所に来てね、それであげたりする。1人ではできないんです。重たくて。

T<sub>4</sub> はい、そういうことをしている。ほかに、この絵の人は何をしているか、付け足しはありますか？

P<sub>9</sub> 魚をとっていても、小さな魚は、網目から逃げてしまう。

P<sub>10</sub> P<sub>5</sub> 君は二本づりって言ったでしょう。(一本づり、と他の生徒) これね、1回船に乗ったんだけどね、ぼくのやった分はこうじゃなかったけどね。魚さかなつりに乗せてくれたおじさんがね魚うおつりって言っていたよ。

T<sub>5</sub> 今、P<sub>10</sub> 君が、この絵の様なことを一度やった、という話が出ましたが、こういうことをしたとか、なんか見たとか、そういうことのある人

は、誰かありませんか？

P<sub>11</sub> あのおね、九州の方でね…竹でつりざおを作ってやった。

P<sub>12</sub> おにいちゃんと海へみんなで行ったら、その時、おにいちゃんが魚つりをやってて…それでね…やっていた。

P<sub>13</sub> 旅行でね、魚つりしてね、それでね、入れてもうすぐに、ひっかかった。

T<sub>6</sub> これはどうも皆の話だと、魚つりの話。

P<sub>6</sub> 君は漁業だと難しいことを言っている。P<sub>6</sub>君のように実際にしたという人もあるし、見たという人もあるし。他にありますか？

P<sub>14</sub> 見たんじゃないけど、絵本で見たんだけどね、お魚が沢山載っている本を見てね。

T<sub>7</sub> 見たという中で、皆も実際… P<sub>14</sub>さんは絵本で見たというし、実際に見た人と、2種類。

P<sub>15</sub> P<sub>12</sub>さんと同じ所じゃないんだけどね、つってね、あじだったからね、えさが別でね…

T<sub>8</sub> つったの？こういう感じ？

P<sub>16</sub> 船に乗ってじゃない。

T<sub>9</sub> あっ、船に乗らない。P<sub>16</sub>さんが言ったのはこれとちょっとと違う。

P<sub>17</sub> それ、何て言うか知っている。

T<sub>10</sub> それでは一つ聞いてみましょうか。

P<sub>18</sub> あのおね、P<sub>16</sub>さんがやったのは魚つりじゃなくてね磯づり。たとえば海でね、こういうものがあるでしょ？つっているのは磯づり。

T<sub>11</sub> 何かそういう専門的なことで磯づりだという。

P<sub>19</sub> でもそこは遊園地だってね。それは海の所に家みたいのであってね。その上に乗ってね、ずーっとアジとかをつるのだからね。

T<sub>12</sub> これは魚つりの絵だ、話だ、ごんな話も出ています。まだありますか。

こちらの方は？

P<sub>20</sub> ぼくはね、どちらもやった。

T<sub>13</sub> これですか？

P<sub>21</sub> あのね、それが船に乗らなかったのもやったし…

T<sub>14</sub> あっ、船に乗らない。

P<sub>22</sub> 乗るのもやった。うちはねサバだけしかつれない。網でとるとねカレイでもとれる。1ぺんだけ島でつったことがあるけどぼくは魚ばっかして大人の方はタコばかりだった。

T<sub>15</sub> ほう、そういう話な。いいですか。皆。船の話、こちらの話、今、いろいろでしたが、それは、この人が何か魚に関係があるということができてきました。この絵の場所はどこですか？

P<sub>23</sub> 海。

T<sub>16</sub> ほう、海。海ですか。海に間違いないですか。この絵の場所は海。

P<sub>24</sub> 湖。

P<sub>25</sub> (海)。

T<sub>17</sub> この絵の場所、またはこの人が魚をとったりなんかしている場所は、今、これか、これか。P<sub>26</sub>君、なぜ海ですか？

P<sub>26</sub> 波がある。

T<sub>18</sub> ほう。波だから、この絵の場所は海という人と。それとも、これはどっちかわからないのかな？はい、P<sub>27</sub>君。

P<sub>27</sub> 湖は食べられる魚がない。

P<sub>28</sub> (エーッ)

T<sub>19</sub> だからこれは海というんだね。そのわけは？

P<sub>29</sub> P<sub>27</sub>君ね、どうしてこれが湖で、どうしてこれが食べられない魚だとわかったんですか？

P<sub>30</sub> いつも食べられると思ったら、食べられないんだ。

P<sub>31</sub> P<sub>27</sub>君もP<sub>29</sub>君も皆まだ湖か海かわからないのに…

P<sub>32</sub> 予想言ってるのよ。だってP<sub>27</sub>君も海でしょ？予想でしょ？

P<sub>33</sub> (予想じゃない、証拠ある)

P<sub>34</sub> 湖はそんなに広くないでしょ？P<sub>29</sub>君、そんなに広くないでしょ。湖ではね、網は使わない。

T<sub>20</sub> はい。ちょっと聞こう。はい。

P<sub>35</sub> 湖だったらね、1つ、池みたいに大きなのがあるだけでしょ。これだったら、湖は真中に島が無いでしょ。この絵だったらいっぱい向こうに見える。

T<sub>21</sub> はい。ちょっと。今いろいろ出ていますが、はっきりしたことがちょっとわからないので、ちょっと、おいておきます。

P<sub>35</sub> (はっきりしている…海)

T<sub>22</sub> 湖か海には間違い無いですか？それ以外の場所では無いですか？では、これから1つの問題としてこの様に残しておきます。何か魚をとる。何か仕事をしているらしい。魚をとる仕事。これは湖でもこんなことをしている人があるのかどうか。海でもあるかかどうか。これ、おいておきます。調べておいて下さい。場所、これ問題になっている。わからない。海か湖か。そこで今魚をとっていると言いましたが、道具の話が出ましたが、1つ出ているのは、つりざお。それから網の話がもう出ました。網でとっている。それ以外に魚をとる道具がこの中にありますか？網とつりざお。

P<sub>36</sub> 手。余り深くない、浅い、浅い海とか川とかだったらね、手で、パクッととれる。

T<sub>23</sub> まあ道具かどうか、ちょっと書いておこう。

P<sub>37</sub> 虫とりの網。

T<sub>24</sub> これ、虫とりの網。

P<sub>38</sub> 虫とりと違って、良く似ているけどね、川用のがある。

T<sub>25</sub> 網といっても こういう 魚とり用の 網もあるという話な？ これも網だし、この絵の網はちょっと違うけど、魚とりのこうした網もあるという話。もう1回整理します。この絵の中の魚をとる道具は、つりざおと網。それ以外にもありますか？またあとでよく見ておいて下さい。魚をとる仕事は、この絵は1人しかかいてありません。魚をとる仕事は1人であるのか、もっとたくさんであるのか、それはどうですか？

P<sub>39</sub> 普通はね、本当のは見たことないけどね、そんなんやったら…

T<sub>26</sub> まあ、予想でよろしい。何人位。

P<sub>40</sub> 大体ね、8人位で1つの網を手伝ってとるんだと思います。

T<sub>27</sub> 大体8人位で。P<sub>41</sub>さんは、普通どの位だと思ふ？普通は1人なのか、何人だと思ふ？

P<sub>41</sub> 私はね、大体でね、5人。

T<sub>28</sub> その訳もあったらね。

P<sub>42</sub> 5人位なんだけれどね、だんだん多くなってきたら、網も変わるんじゃない？

T<sub>29</sub> この人数によって道具も変わるという話か？じゃ、1人の時もあるのか無いのか？いろいろな意見があります。これは1人の時、絵は間違っているというのか？

P<sub>43</sub> 1人の時もあるけれど、網の方は1人は絶対ない。魚がいっぱいとれた時重たくて。

T<sub>30</sub> ほう、絶対？この絵は嘘やというのやね。ちょっと、はい。話して下さい。今のこと。

P<sub>44</sub> 1人では網が魚がいっぱいとれた時引けへん。魚の重さで引けへん。それやし1人では網は投げられるけど、上にやるとき網のおもりでできない。

T<sub>31</sub> この絵は嘘か？

P<sub>45</sub> この絵の様にこの中に人が入っている。ここに箱みたいなのがあるでしょ？この中に人が入っているかもしれない。まだ半分の船しか見えないでしょ？もし、うしろにいるかもしれない。

T<sub>32</sub> ここに何か丸がある。この中にたくさん人が入っている。だから嘘じゃないという。

P<sub>46</sub> もし1人だったら…みたいにはできないけどね。P<sub>45</sub>さんと意見が違うんだけどね。大体同じなんだけどね。1人の人が外に出てて、テレビで見たんだけど、カモメのいる所に魚がいるのね。その人が網をはってカモメのいる所を見つけたら、仲間を呼んでね。船の向こうにいるかもしれないでしょ？その仲間がいるとしたら呼んでね…

P<sub>47</sub> じゃあ、どうして1人で引いてんの？

P<sub>48</sub> それはね、P<sub>47</sub>さん、大勢でね引いてたらじゃまで引けないでしょ？どうしてP<sub>47</sub>さんは1人で引けないと思うの？

P<sub>49</sub> 網で引いていたら、テレビで言ってたんだけどね、1人じゃ絶対にできないって言ってましたよ。見てたもん、あたしが。

P<sub>50</sub> そんなん言うんだったらね。僕にだって質問があるよ。P<sub>49</sub>さん、P<sub>49</sub>さんはね、1人で、はじめは、魚を引けると思ってましたか。4歳から5歳の時に。

P<sub>51</sub> いいえ。

T<sub>33</sub> ちょっと、ほかの人の意見を聞きます。

P<sub>52</sub> あとでね、人が引きにくる、手伝いに。

T<sub>34</sub> だから、この絵はこれも、ちょっと待って下さい。これもちょっとおいておきます。2つ目な、あとでやります。たくさん問題ができましたよ。だんだん問題がでて2つ目もできました。次、もう1つ、わからないの。これもあとの問題、これからの勉強においておきます。この絵のもう1つわからないのは、これはいつ頃ですか？朝、昼、晩、夜中、いつ頃か



?魚をとっているのはいつ頃か?訳もあったら言って下さい。なぜ朝と思うのか?

P<sub>53</sub> あのね。朝とっとなきゃね、あのね、昼は昼御飯があるでしょう。だから買い物があるから…

T<sub>35</sub> あっ、朝とってないと昼御飯に間に合ない。ちょっと聞きなさい。

P<sub>54</sub> 夜中にね、こうね…。夕方位に船を出して、夜中に光をつけたら、魚が明るい所に集まってくるから、その時にね、網でとったりしたらね…

T<sub>36</sub> 今朝いう人と…おじいさんとおばあさんに聞いた話を先に聞きます。どんな話を聞いたのか。

P<sub>55</sub> あのね、おじいちゃんとおばあちゃんが言っていたのね。おじいちゃんはね、小さい時にね、お父さんね、お魚とかとっていたからね。お父さんに聞いたらね、昼に帰ってきてまた行ったりしていた。朝御飯を食べて行って、昼御飯を食べてまた行く。

T<sub>37</sub> 朝とるということ。

P<sub>56</sub> 私もおじいちゃんと言ってたんだけどね、お魚とりに行くのね…朝ね4時位に行くから、帰ったら5時位になるの。

T<sub>38</sub> これもまたいろいろ意見が分かれました。これもまたいろいろ今度考えてみます。もう1つ、この人は魚をとってどうするのか?

P<sub>57</sub> あのね、お金もうけして売の。

P<sub>58</sub> (スーパーやそんな所に持って行く…魚屋さんに…)

T<sub>39</sub> 今話に出ているのは、この人は、お金もうけのために売る。いや、売らないという意見が出ている。いろんな人に聞いてみましょう。

P<sub>59</sub> この間ね、あたし、テレビで見たんだけどね。魚とっても水族館なんかにもっていく所もあるからね。こんな絵では実際に見ないとね、売るか売らないかわからない。

T<sub>40</sub> これは水族館へ行くかもしれないから、この絵だけではわからない。

P<sub>60</sub> 絵ではね 魚をとっているでしょ？そしてね、お水に入れてね、1つね、ややこしいんだけどね。

T<sub>41</sub> ややこしい。この売る所がややこしい。そういう話な。

P<sub>61</sub> あのね、テレビで見たんだけどね、お魚とって売るんだけどね、そのままお屋さんなんかにお出すんじゃなくてね、途中どこかに売って…お魚屋さんが買いに来るの、朝早く…

T<sub>42</sub> これもちょっとおきます。まとめをします。今もめているのは、この絵の人は魚をとって水族館にもって行くのか、誰に売るとかもめています。これ、誰に売るとかいやそうではないのか、それだけ聞いて終わります。ではこの列の人から。ここから、今から8人の人に意見を聞いて今日の勉強は終わります。

P<sub>62</sub> 私はね、この人はつった魚を…水族館へもっていかね…どこかへもって行く。お金もうけをする人もいるけどね、違う人もいる。

T<sub>43</sub> 全部が全部そうではない。

P<sub>63</sub> お米は農家の人から直接お店に行かないでしょ？だからそれに似ていて、魚を直接お屋さんに出さない。

T<sub>44</sub> だからそれと同じように魚をとる人も魚屋さんに持っていかないんだろう。これについてはどうですか。お金もうけに魚をとっているのかどうか。

P<sub>64</sub> (間違っている)

T<sub>45</sub> では何のために。では今から手を挙げて下さい。最後、1つだけ聞きます。今日の勉強のまとめで、魚をとる人は何のために魚をとっているのか、それに対して売り先とかこれは色々もめていたから残しておきますが、お金のもうけのために魚をとっているというのに賛成の人と、いや、これはそうじゃないという人に分かれています。お金もうけというのに賛成の人、手を挙げて下さい。次お金もうけではなしに他の理由で売ったり

しているという人。わからない人。

P<sub>65</sub> この前、市場見学に行った時、魚屋さんの所に水槽があって魚が泳いでいてね、それで、お金をもうけているのかいないのかわからない。

T<sub>46</sub> 今日のこれはおうちに持って帰ってもいいです。今日の勉強して考えたいことやこういうことが解らないからもっと調べてみたいということここに書いて持ってきて下さい。色を塗ってもよろしい。はい、おわります。

## 2. 「展開1」の授業

「展開1」は、「魚は重要な食料の1つである」こと、「漁師は魚をとっている」こと、そして「漁師は海で働いている」ことなどを「食べ物一覧表」、「漁港の図」、「日本の主な漁場」、「海の深さと魚」、「穏やかな海と嵐の海」、「難波した船」などの資料をもとに把握させようとして展開された。この授業は、子どもたちに、「展開2」、「展開3」で学習することになる漁師の仕事が、実際に行われている場や、その対象となる魚というものを理解させようとしたもので、かなり自然科学的内容も含んだものになった。しかし、距離を習っていないし、日本の地図も習っていない子どもたちに、海の深さをとらえさせるために魚の体型の相異等を利用するなどの試みによって、何とか、子どもたちに正しい認識をつけさせることができた。(紙数の関係で、授業記録は略す)

## 3. 「展開2」の授業

「展開2」は、「どのように漁師は働いているか?」、「いつ漁師は働いているのか?」という2つの問いを基礎として、「漁師はできるだけ多くの魚をとるために道具を使っている」、「漁師はできるだけ多くの魚をとるために共同で働いている」、「漁師はできるだけ多くの魚をとるために

魚を育てている」,そして「漁師はできるだけ多くの魚をとるために集中して働いている」という知識を定着させることをねらいとした授業である。

住吉小では、「導入」の授業をうけて、機械を使えば1人でも魚とりはできるという主張と人数が多い方がよいという主張が子どもたちから対立する意見として出され、教師はこの対立から、「引っぱる時に重い」、「たくさんとった魚をバケツなんかに入れる時たくさんいると速く入れられる」あるいは「順番に渡してできる」などの意見を引き出し、最後に「魚をとるのは1人ではなくてたくさんの人でとる方がよい」と整理していった。(最初の27分間を使った)次に、使用されている道具を資料から見つけ出させた。後半は、かなり急いで、「私は、もし小さい魚だったら、もう一寸大きくしてそれから殺して食べる」ことや「漁師さんてね、たいいてい朝早くか、夜にやる。そうしないとね、魚がいっぱいとれない」ことなどを、子どもたちの発言として引き出していった、終わった。

佐和山小では、「導入」で使用した資料とこの授業で使用する資料を対比させて、この授業に入った。(授業記録を参照) T<sub>4</sub>の「その時の絵とはどこが違っているかな?」がそのための発問である。そして、その違いについて、「(T<sub>9</sub>) 漁師さんが大勢でとるのはどうしてかな」とさらに問いかけて、P<sub>16</sub>~P<sub>19</sub>の答えを引き出した。T<sub>10</sub>~T<sub>21</sub>では、資料から漁師の仕事には魚を育てる仕事もあってそれはたくさん魚をとるためであることをおさえていった。T<sub>21</sub>~T<sub>24</sub>では、漁師はいつ仕事をするかを考えさせた。この追究は、休けいをはさんで次時に持ち越された。

〔佐和山小展開2の授業記録〕

- T<sub>1</sub> この前何の勉強をしていたの? (教師) 魚の勉強をしたの? (教師)  
 P<sub>1</sub> 海で働いている人のこと。(教師) 海で働いている人のこと。(教師)  
 T<sub>2</sub> 今日はまたこの勉強をしましょう。今度は違うのを配るから見てみま

しょう。皆、良く見て下さい。これは何をしている所かな、わかる人。

P<sub>2</sub> 魚をとっている所。

P<sub>3</sub> 漁師さんが魚をとっている。

P<sub>4</sub> 右の絵はさおでとっています。

P<sub>5</sub> 左の絵は網で魚をとっています。

T<sub>3</sub> 一番はじめの時に、これとよく似た絵を見なかったかな？

P<sub>6</sub> さおでとっている所があった。

P<sub>7</sub> 網でとっている所があった。

T<sub>4</sub> その時の絵とはどこが違うかな？

P<sub>8</sub> 今日の絵はいっぱいの人でやっています。

P<sub>9</sub> 網でとっている所。

T<sub>5</sub> とっている所と大勢でしている所が違うね。

P<sub>10</sub> 前の絵は魚がつれていなかったのに、つれている。

T<sub>6</sub> どこに魚がつれているかな。いろいろな意見がでたけれど、たくさんの人が魚をとっているということがでたけれど本当かな？

P<sub>11</sub> 本当。

T<sub>7</sub> 何人位でとるのかな？

P<sub>12</sub> 網でとるのは8人位。

P<sub>13</sub> さおでしている人は5人。

P<sub>14</sub> 10人位。絵にかいててない人は他の所につっている。

T<sub>8</sub> 網の方はどうだろうね。

P<sub>15</sub> 小さい魚は2人位だけど、大きい魚は10人位。

T<sub>9</sub> この意見でいいかな。漁師さんが大勢でとるのはどうしてかな？

P<sub>16</sub> つりざおの方は1人でとっていれば余りとれないけれど大勢でとればたくさんとれる。

P<sub>17</sub> 網でとる方も大きい魚がとれるとたくさんの人で引っぱり。

- P<sub>18</sub> 小さい魚がいっぱいとれるから重いのでたくさんの人でとる。
- P<sub>19</sub> いっぱいって市場へ持って行って、魚屋さんが売りに行く。
- T<sub>10</sub> それでは、漁師さんは海で魚をとっているだけでしょうか。次の絵を見ながら、考えてみましょう。この2つの絵を見て下さい。この絵は何をしている所だろう？
- P<sub>20</sub> 魚が死んでいるのをほりこんでいる。
- P<sub>21</sub> 左の絵は奥の方に網を張って魚を育てている所です。
- T<sub>11</sub> この列の人に言ってもらいます。
- P<sub>22</sub> 魚を育てている所だと思います。
- P<sub>23</sub> 魚がいる所。
- P<sub>24</sub> 魚を育てる家をつくっている。
- P<sub>25</sub> 魚を育てている所だと思います。
- T<sub>12</sub> これは魚の家だという意見と魚を育てている絵だというのができましたね。まん中にいる人は何をしているのだろう？
- P<sub>26</sub>～P<sub>29</sub>\* 魚にえさをやっています。
- T<sub>13</sub> どうして魚にえさをやらなくてはいけないの？
- P<sub>30</sub> えさをやらないと死ぬからです。
- P<sub>31</sub> えさをやっていっばいたまったら市場にやる。
- P<sub>32</sub> 網が張ってあるのは逃げられないし、そこはえさを遠くまでとりにいけないからあげます。
- T<sub>14</sub> この中は、大きな魚かな？小さな魚かな。
- P<sub>33</sub> 大きいのと小さいの。
- P<sub>34</sub> まん中位。
- P<sub>35</sub> 深い所にいます。
- T<sub>15</sub> お魚を飼っている所を見たことあるかな？
- P<sub>36</sub> 金魚だったらある。

P<sub>37</sub> 親類の人だけコンクリートの大きな所にアユとかいっぱい育てています。

T<sub>16</sub> どこか遠足に行ったのではなかった？

P<sub>38</sub> 先生たちとえさをやっていました。

P<sub>39</sub> どこかの海で誰かがえさをやっていた。

T<sub>17</sub> どうして漁師さんは海にいる魚だけをとっていたら良いのに育てているのかな？ どういう良いことがあるのかな？ お魚はいつもじっとしているかな、そういう所がヒントだよ。

P<sub>40</sub> 大きくなったら網でとります。

T<sub>18</sub> 漁師さんが嵐にあったらどうかな？

P<sub>41</sub> 沈没する。

T<sub>19</sub> そんなことと比べたらどうかな？

P<sub>42</sub> 網の中だったら大丈夫だ。

T<sub>20</sub> どうして漁師さんは海にいる魚をとらないでこういう所で育てるのかな。船でとるよりもどうかな？

P<sub>43</sub> 網でもとれます。

P<sub>44</sub> とりに行ったらなかなかとれないけれど網の中だったらとりやすい。

T<sub>21</sub> この様に育てるのもたくさん魚をとるためだね。今度は、どんな絵かな。今度は漁師さんはいつ働いているのかということを勉強しよう。いつ働いているのかな？この列の人に言ってもらおう。

P<sub>45</sub> 左の絵は夜働いている。

P<sub>46</sub> 左の絵は電気で魚をとっているから夜だと思います。

P<sub>47</sub>~P<sub>48</sub>\* わたしも夜だと思います。

T<sub>22</sub> 漁師さんはいつ働いているの？

P<sub>49</sub> 夜だと言ったけれど朝だと思います。

P<sub>50</sub> ぼくは昼だと思います。

P<sub>51</sub> (ガヤガヤ) ……

P<sub>52</sub> 昼は昼御飯を食べるのでやらない。

P<sub>53</sub> 私も昼はやらないと思います。昼は日が照っているから網が乾きやすいし。

P<sub>54</sub> 昼は上の方へこないから夜とか朝にとる。

T<sub>23</sub> 魚はいつも同じ所にいるのかな？

P<sub>55</sub> いません。

T<sub>24</sub> 魚は動くのですね。それでいいかな。そしたら漁師さんは船に乗って魚のいる所へいかなくってはならないね。皆が言った様に夜とることもあるね。ちょっと休けいです。(※はくり返し)

#### 4. 「展開3」の授業

「展開3」は、「とれた魚を船倉に入れている漁師」、「大漁旗をかかげて帰港する漁船」、「水揚げ港の市場」、「出荷のようす」などの資料をもとに、「なぜ漁師は海でたくさんの魚をとったり育てたりしているのか？」という本単元の全体を貫く問いを発することによって、子どもたちに「漁師は海でたくさんの魚をとったり育てたりして収入をえている」という知識を定着させようとして行われた。

住吉小では、意図した展開に入る以前に、どった魚をどう冷凍して保存するのかということが問題となり、約15分間程その議論が続けられたのち、「T たくさんとれた時は、何か旗を立てて帰ってくる。この船もきつとたくさんとれたんだ。そこで1つ先生不思議だなと思うのは、漁師さんたちが家の人だけで食べるには非常にたくさんの魚をとっているんじゃないかと思います。…なぜこんなにたくさん、漁師さんの家で食べきれんんですか？」と発問してねらいに迫ろうとした。そして、生徒の答えを、板書で「1.たべたりうる、2.こうじょうにうる、3.うってからのこったらた



べる, 4. ぜんぜんたべない…おろしいちば→いちば, 5. たべたのこりをよそのくにうる」という仮説として明示し, 吟味させていった。最終的には, 子どもたちの意見は, 1が2人, 3が12人, 4が18人, 5が3人, その他1人となった。

佐和山小では, 休けいの後に, 「展開2」の続きから入り, 「展開3」へはT<sub>9</sub>以降入っていった。(授業記録参照)そしてT<sub>9</sub>やT<sub>10</sub>で事実を読みとらせて予想させた後, 「T<sub>11</sub> それではどうして漁師さんは海で魚をとったり育てたりしているのかな?自分の家族で食べるかな?」と発問し, P<sub>46</sub>~T<sub>13</sub>において魚を売っていることを確認した。さらにT<sub>13</sub>~T<sub>18</sub>において, 追加した資料から, 魚は皆が買っており, 漁師はそのお金を収入としてえて, 仕事と生活に使っていることをおさえた。しかし, 時間も少なくなり, 収入の概念を十分に把握させるまでには至らなかった。

〔佐和山小「展開3」の授業記録〕

(休けいの後再開)

T<sub>1</sub> 右の絵はいつの絵かな?

P<sub>1</sub>~P<sub>6</sub>\* 昼だと思います。

T<sub>2</sub> 皆昼だと言っているけれどその他に意見ないかな。漁師さんがどういう時にしているのかな?

P<sub>7</sub> 船で魚をとった時の網を干しているのはお天気の時だと思います。

T<sub>3</sub> この絵の中にはどういう人が出てきているのかな?

P<sub>8</sub> 漁師さんがいます。網をほしています。

P<sub>9</sub>~P<sub>13</sub>\* 船をなおしています。

T<sub>4</sub> 船をなおしたりするのはどういう時にするのかな?

P<sub>14</sub> 漁師さんが海に出かける前を見て, こわれたらなおす。

P<sub>15</sub> 波が出てこわれた時になおす。

T<sub>5</sub> こういうものをするのは, お魚が海にいる時かな, いない時かな?

P<sub>16</sub> いる時です。

P<sub>17</sub>~P<sub>18</sub>\* 昼頃になると思います。

P<sub>19</sub>~P<sub>20</sub>\* お天気の時だと思います。

P<sub>21</sub> 昼の時のお天気のよい時にします。なぜかという乾していたのにぬれてしまうから。

T<sub>6</sub> 漁師さんは一日のうちいつ働いているのかな？

P<sub>22</sub> 昼だと思います。

T<sub>7</sub> 漁師さんはどうしてこんなことをするの？どうして船をなおすの、網をなおすの？

P<sub>23</sub> 船がこわれると沈みます。

P<sub>24</sub> 海に行けません。

P<sub>25</sub> (無答)

P<sub>26</sub> 上手につれない。

P<sub>27</sub> 外へ魚が逃げて少ししかとれない。

P<sub>28</sub> 舟に水が入ったりとれた魚が逃げる。

T<sub>8</sub> 大勢でとったり育てたり、網を干したり、船をなおしたりするのはどうしてだろう？

P<sub>29</sub> 魚はとってから種類に分けて、魚を箱に入れて、市場へ持って行く時に持って行く。トラックに積んでいく。たくさんとれたらいいと思っている。

T<sub>9</sub> 次の絵を配るよ。今度はどの列に聞こうかな、この絵はどんなところかな？

P<sub>30</sub> 魚を入れていると思います。

P<sub>31</sub> 海でとった魚を箱に入れてあります。

P<sub>32</sub> 箱に入れます。

P<sub>33</sub> バケツの中に入れ、それを箱に入れます。

P<sub>34</sub>～P<sub>36</sub>\* 海でとった魚を箱に入れてあります。

T<sub>10</sub> 右の絵はどういう絵かな？

P<sub>37</sub> 船が琵琶湖に帰ってきていると思います。

P<sub>38</sub>～P<sub>45</sub>\* 魚をとって港へ帰ってきます。

T<sub>11</sub> みんなの予想はあっています。それではどうして漁師さんは海で魚をとったり育てたりしているのかな？自分の家族で食べるのかな？

P<sub>46</sub>～P<sub>47</sub>\* 食べない。

T<sub>12</sub> 漁師さんは魚が好きでたくさん食べるのではないかな？

P<sub>48</sub> 食べないで、ちがう所へ持って行く。

P<sub>49</sub> 魚をいっぱい詰めて魚市場へ持って行く。

P<sub>50</sub> 魚市場に持って行く。

P<sub>51</sub> 売りに行きます。

P<sub>52</sub>～P<sub>53</sub>\* 食べません。

P<sub>54</sub> 食べないで売りに行きます。

T<sub>13</sub> そうすると漁師さんは、とった魚を食べないで売りに行くのですね。魚市場へ持って行くのですね。今度は最終の絵を配ります。左の絵はどういう所でしょうね？

P<sub>55</sub> 魚が並べられています。

P<sub>56</sub>～P<sub>57</sub>\* ぼくも魚市場だと思います。

P<sub>58</sub> 海の近くだから魚市場だと思います。

P<sub>59</sub> 漁師さんが魚を持って、魚市場に持って行くと思います。

P<sub>60</sub> お魚を持って来た所で売っていると思います。

T<sub>14</sub> これは市場だと言いましたが、これでいいですか？右の絵はどうですか？

P<sub>61</sub> 魚を箱に詰めてトラックに積んでいます。

P<sub>62</sub>～P<sub>64</sub>\* 魚を詰めて魚市場に持っていきます。

P<sub>65</sub> 魚市場で魚を買って、魚屋さんの家へ持っていきます。

T<sub>15</sub> 漁師さんが売ったお魚はどうなるのかな？

P<sub>66</sub> 皆が買います。

T<sub>16</sub> お魚を売ったお金でどうするのかな？

P<sub>67</sub> こわれた網を買います。

P<sub>68</sub>～P<sub>70</sub>\* さおや網を買います。

T<sub>17</sub> 漁師さんが生活に必要なものはどうしているのだろう？

P<sub>71</sub>～P<sub>73</sub>\* ご飯やパンを買います。

T<sub>18</sub> 食べる物だけでなく、着る物も買うのですね。

## 5. 「終結」の授業

この授業は、社会の絵本『かつおぶね』<sup>10)</sup>を資料にし、それを教師が提示しながら、本文を読み、難しい語句については注釈を加えるという一斉教授を行ない、次いで、それぞれの子どもに、質問紙に各自の回答を記述させるというやり方で実施した。ここでは、子どもたちが「導入」および「展開」の学習活動で、彼ら自身のことばで表現していた漁師の仕事の内容に対して、『かつおぶね』の文章に示された大人のことばが対応させられることになる。そして、子どもたちが獲得してきた内容の概念化が促進される。そして、大漁旗をかかげて帰港する漁船の姿で終わっているこの物語の続きを子どもたちに完成させるよう求めることによって、どれだけ知識が定着したか否かを把握できるのではないかと考えた。

2つの実験校で、その質問内容は若干異なったものになった。

住吉小では、「1. どんなばしょではたらいているか」、「2. どんなどうぐやきかいをつかっているか」、「3. どんなふうにはたらいているか」、「4. この人たちがとったかつおはどうなるのか」、「5. このえほんのつづきはどうか」という問いであった。

佐和山小では、「1.『かつおぶね』にでてくる人はどんな人でしょう」、「2.どんなばしょではたらいていますか」、「3.どんなふうにはたらいていますか」、「4.この人たちがとったかつおはどうなりますか」、「5.このおはなしのつづきをかきましょう」、「6.なぜりょうしはうみでたくさんのおさかななどをとっているのでしょうか」という問いであった。

質問紙には、上の各問いと共に、「じゅぎょうのかんそうをじゆうにかいてください」という欄を設け、子どもたちのこの実験授業の受けとめ方をさぐるうとした。

注(1) 絵本『かつおぶね』を授業に活用した例としては、本実験授業以後出版された田宮輝夫・田倉圭市・山本典人・鹿野降弘・江川多喜雄・砂賀嘉治著『教え方の基礎技術①1・2年』（東京、あゆみ出版社、1979、10）所収の鹿野氏の実践、『『かつおつり』の授業』（pp.93-97）がある。

## VII 子どもたちの認識の変容

### 1. 「導入」終了時の子どもたちの認識（仮説形成）

本授業でねらいとした概念的知識を導く問いである「なぜ漁師は海で魚などをとったり育てたりしているのか」に対して、「導入」終了時に子どもたちは次の様に挙手あるいは教授資料の回答用の空欄に記述で答えていた。

住吉小では、35人のうち、お金もうけのためとするもの5人、水族館へ送るなどとするもの10人、わからないとするもの20人であった。（挙手）

佐和山小では、質問紙回収数25人のうち、売って残りを食べるとする者が4人、売ってお金をもうけるとする者が14人、魚屋さんだからとする者が1人、食べるとする者が1人、その他3人、無答が2人であった。

### 2. 「展開」終了時の子どもたちの認識（仮説の検証）

住吉小では、「展開3」において、子どもたちの認識は、「なぜ食べきれ

ない魚をとるのか」という教師の発問に対応するものとして示された。それによれば、漁師は全然食べないで市場に売ってお金もうけをし暮らしを立てているのだとするものが18人、売ってから残ったものを食べるとするもの12人、食べた残りをよその国に売るとするもの3人、食べたり売るとするもの2人であった。

佐和山小では、ノート(「今日の勉強で」)の記述に次の様な形で、子どもたちの認識の片鱗がうかがわれた。「なぜさかなをとるか<sup>(い)</sup>とゆう<sup>(うお)</sup>といのいちばにだすかたべるのかそういうことかもしれません、「わたしは、なぜ、うみまで、とりにいったり、そだてているのか<sup>(い)</sup>という<sup>(うお)</sup>と、さかなうお<sup>(いち)</sup>一ばにもっていかなければならないからとおもいました。…(中略)…ならべられているさかなは、うお<sup>(いち)</sup>一ばから、かわれて、おみせに、いって、うられているとおもいました。わたしが、さかなをたべているさかなは、うお<sup>(いち)</sup>一ばから、もらってくるとおもいました。トラックにのせてから、う<sup>(お)</sup>を<sup>(いち)</sup>一ばにもっていって、わたしのおかあさんがこうて、わたしたちがたべるさかなになる、とわかりました。」「りょうしさんかうみからさかな<sup>(とって)</sup>をとてきてならべてさかな<sup>(ば)</sup>いちは<sup>(お)</sup>のひとがきてさかなをいちば<sup>(もって)</sup>にもてきました…」、「そしてりょう<sup>(し)</sup>さんはさかなを<sup>(と)</sup>って<sup>(お)</sup>はいつもう<sup>(お)</sup>をいちば<sup>(へ)</sup>えもって<sup>(わ)</sup>いくことがわたしは、はかりました。」

なお、他の、いつ働いているかという様な問題についても、たとえば1人の子どもは、「朝や夜もさかなをとりにいくので、『ひるは、いつもなにをしているのかな。』とおもいました。よくえをみるとひるまは、あみをほしたり、ふね<sup>(お)</sup>をな<sup>(お)</sup>をしたりしていました。」と自らの疑問を資料によって解決しようとしているのが伺われた。どの子どもも、授業の内容を手がかりに、自分自身で資料に付された発問に答えようとしていたことを、回収した資料への書き込みから知ることができた。

### 3. 「終結」時の子どもたちの認識

住吉小では、質問紙への回答から、子どもたちの認識は次の如きものであると推定される。(結果はのべ数である)

漁師はどんな場所で働いているのか、ということについては、海で(31名)、ふねで(6名)、ぎょじょうで(4名)、南の方で(4名)、とほぼ全員が、正しい認識をえていることを示している。南の方でと答えたのは与えた絵本の影響である。ぎょじょうという概念が一部の生徒にとってではあるが、漁師の働いている場所を示す語であると認識されていることが伺われる。

どんな道具や機械を使っているか、については、つりざお(31名)、あみ(11名)、エンジン(11名)、むせん(7名)、せんそう(5名)、らしんばん(2名)、その他(9名)、などを挙げている。ここでも、「終結」での強化が、つりざおやむせんとなってあらわれ、さらに、エンジンやらしんばんなどの語彙が加わっている。

どんなふうに働いているかについては、つりをして(16名)、みはりをして(10名)、いっしょうけんめいつかれるまで(6名)、食事をつくって(6名)、ニュースをおくって(5名)、その他(7名)、と答えている。

そして、この人たちがとった魚はどうなるのかという問いに対しては、売る(10名)、売り残りは食べる(8名)、売り、食べ、育てる(2名)の他、冷凍にする(11名)となり、「導入」時にみられた「わからない」や「水族館へ送る」といった答はなくなった。

さらに、つづきはどうかということに対して書かせた文書中においても、21名が売るといふことに言及していた。

佐和山小では、『かつおぶね』にでてくる人はどんな人かという問いに対して、りょうし(21名)の他、みはり(10名)、コック(9名)、天気を見る人(8名)、りょうしのかぞく(8名)、れんらくをする人(4名)、ぎ

よろうちょう(しきをする人) (3名), せんちょう (2名), その他(12名)と答えている。ここでは, 子どもたちの, 漁師という概念が拡大されていることが伺われる。

どんな場所で働いているのかについても, 海(15名), 魚がいっぱいいるところ(8名), ぎょじょう(5名), 船(5名), みなと(1名)と答え, 単に海で働いているということにとどまらず, 魚のいる海(ぎょじょう)というより深まった見方をしていることが伺われる。

どんなふうに働いているのかという問いに対しては, 魚をとって(10名)ということの他に, つりぎおで(14名), あみで(3名), ふねで(1名)などの様に道具や機械に言及したり, 大勢で(4名), 昼も夜も(1名), 育てて(1名)など, 労働のしかたに言及しているものも見られた。

とったかつおはどうなるのかという問いに対して, 売るという答えが多い(21名)のは, 予想の時と同じであったが, その答えのなかで市場にまで言及したものが17名もいたことは, この授業の「展開」部での学習の結果であると思われる。この傾向は, 次の, お話の続きの予想でも同じ様に見出された。すなわち, 市場に売ってお金をもうけるとするものが15人, 売って余った分はもらおうとするものが3人, などとなってあらわれた。

そして, なぜりょらしはさかななどをとったりそだてたりしているのかという問いに対しては, 売るためとするものが16名であり, そのうち7名は, くらしやもうけに言及しており, 授業途中の生徒のノートへの記述などと合わせて考えると, この授業でねらいとした「漁師は収入をえている」という概念的知識は, かなり生徒に理解させることができたと言える。

#### 4. 子どもたちの授業観

実験授業を受けた子どもたちは, この試みをどう感じていたのである



うか。「じゅぎょうのかんそう」には次の様な結果があらわれている。

住吉小では、学習方法に関して、プリントは詳しくてよくわかった(7名)、プリントで学習したので魚つりに行ってみたいとなったが難しい時もあった(2名)、プリントはおぼえやすい(1名)、社会は嫌いだがプリントは残しておく(1名)などがあった。学習内容に関しては、漁師さんは楽しそうだ(1名)などがあった。学習全般に関しては、おもしろく楽しかった(6名)、難しいが楽しかった(4名)、難しかった(4名)、続きをしたらおもしろいだろう(3名)、仕事を船に乗ってしてみたい(1名)、であった。

佐和山小では、学習方法に関して、プリントに自分の考えを書いたのがおもしろかった(4名)という回答があった。学習内容に関しては、海の仕事は大変だ(2名)、漁師さんはいっぱいって市場へ持って行って売るので(2名)、漁師さんはどうして上手に魚をとれるのか不思議だ(1名)、などがあった。学習全般については、よくわかった(14名)、よくわかって楽しかった(2名)、おもしろかったが難しかった(1名)、はじめつまらなかったが段々おもしろくなった(1名)などがあった。

この授業は、子どもたちにとって、よくわかり同時におもしろく楽しい授業であったようである。それは、プリントを使ってするという授業の形態にもよるのであろうが、それ以上に、子どもたちに学習させた知識のレベルが「難しいが楽しい」という応答にあらわれているように、子どもたちの既有的知識に挑戦するものであったからであろうと思われる。

## VII 研究の成果と課題

実験授業によって、次の結論をえることができた。

①小学校2年生の子どもにとって、「いろいろな人がいろいろな場所で

働いて収入をえている」という概念は学習可能である。

②小学校低学年の子どもにとって、探究的な学習過程は適切なものである。ただし、探究の過程は、概念的知識習得を基礎としながらも、その概念的知識に対応する事実に知識を豊かに与えることによって始めて、子どもたちがたどることが可能になるということができる。また、概念的知識は、子どもたちが個々の概念の内包する諸事実を彼らなりのことばでとらえ、それに対して、大人のことば（概念）を付与することによって、子どもたちの思考において正しく使用されうるものになる。

③小学校低学年において、絵画的な教材はそれが、②の探究的な学習過程と組み合わせられて使用される時には、有効な教材となる。特に、子どもたちが社会科の学習において、対象としなくてはならない社会事象には子どもたちが直接経験できないものが多い。それらは間接学習で学ばねばならないわけだが、その際、絵画的な教材が提供する間接経験は低学年の子どもたちにとって、適切なものの1つであるといえる。

今後の課題としては、次の諸点が考えられる。第1に①、②、③のそれぞれが、発達段階を異にする子どもたちにとって有効であるか否かを検討すること。第2に、小学校低学年で習得可能な、社会科学に基づく、概念的知識を見出すこと。第3に、学習過程を他の方法、たとえば発見の方法によって組織するということを考えること。第4に、教材について、絵画ではなくて、他の素材（たとえばアメリカ新社会科にみられるようなカラー写真）を使用してみるというやり方も試みる必要がある。第5に、本研究でとられた間接学習は、新学習指導要領でいう「具体的に観察させ」<sup>10</sup>るという直接学習と、どの様につながられうるのか、あるいは、相互に補完しうるのか、が検討されなければならないであろう。

注(1) 文部省『小学校学習指導要領社会』第2章第2節 pp. 25-26（東京：大蔵省印刷局，1977）

〈本研究は、昭和54年度科学研究費補助金総合研究(A)による「発達段階に応じた社会科総合学習の実証実験的研究」の研究成果の一部である〉